

EMERGENCY WATCH

No. 105 sep 2019

神戸こども初期急病センター

2019年8月
受診者数
1910人

疾患頻度

1. 急性上気道炎 445人
2. 感染性腸炎 233人
3. 咽頭炎 161人
4. ヘルパンギーナ
+手足口病 122人
5. 喘息 111人

大流行していたヘルパンギーナ・手足口病も8月に入って収束傾向です。RSウイルス感染症が昨年同様8月から増加しています。

EMERGENCY WATCH

特別連載 こどもの事故 part 6

秋です。いろんな農作物が旬を迎え、新米の季節がやってきました。ご飯がおいしいですね。我々おとなは「食べられるものと食べられないもの」の区別がちゃんとしていますよね。救急外来をしていると敢えてフグの肝を食べて(もちろん法律違反です)息がしにくくなってなんて無分別なおとなを診ることがありますが...

今回は異物誤飲についてのお話です。

「誤飲」というのは本来口に入れて飲み込むべきでないモノを飲み込んでしまうことです。その中には消化されずに消化管を傷つけるような固いものや、中毒を引き起こす毒性物質まで様々なものがあります。

1歳のBちゃん。居間でBちゃんが一瞬泣いて顔色が悪くなったのに気付いた母親がBちゃんの周りを見ると財布の小銭入れが開けられ中身が飛び出していました。顔色もよくなって元気になっているので家で様子を見ていましたがよだれが止まらないのと飲み物も食べ物も受け付けなくなったので急いで救急病院へ行きました。お母さんから詳しく話を聞いた先生はハタと気づいて、胸部と腹部のレントゲンを撮ってみました。胸部レントゲンでちょうど胸の真ん中のところに大きな丸いものが見えました。位置的に食道内異物と診断し全身麻酔をかけて内視鏡で摘出しました。出てきたものは500円玉でした。食道の内側には傷もなく無事でした。麻酔から覚めたBちゃんはご飯が食べられるようになって退院しました。

異物誤飲

厚生労働省が全国で10か所のモニター病院の協力を得て収集した誤飲事故のデータを示します(表1)。

表1 家庭用品等に係る小児の誤飲事故に関する報告 病院モニター報告 厚生労働省 2016年度

家庭用品等	件数	%
タバコ	147	20.2
医薬品・医薬部外品	108	14.8
プラスチック製品	72	9.9
食品	61	8.4
玩具	52	7.1
金属製品	42	5.8
硬貨	32	4.4
洗剤類	29	4.0
電池	23	3.2
文具類	18	2.5
上位10品目 計	584	80.2
総数	728	100

タバコや医薬品が常にトップとなっていて、救急外来を受診する乳幼児の誤飲の原因としては私の経験にも一致します。医薬品の誤飲に関してはpart4でふれましたがたった一錠でも子どもを死に至らしめる薬がありますので手の届かないところに必ずしまうようにしましょうね。

異物誤飲のうちBちゃんのケースのような固い物体についてですが、固い異物は異物の位置が重要です。胃とその先に入ってしまったものはほとんどのものは取り出す必要はありません。うちになって出てくるのがほとんどです。しかし食道より上にとどまるものは自然に排出されることはほとんどありませんので摘出が必要になります。次に大事なのは異物の種類ですがボタン電池と2つ以上の磁石が危険です。特に厄介なのはボタン電池です。食道内

に留まっているボタン電池は緊急で摘出しなければなりません。時間がたてばたつほどボタン電池の出す強力な電圧によって陰イオンが発生し食道壁に潰瘍を作り、食道に穴が開く場合があります。ここで注意しなければいけないこととして、消化管異物は必ずしも消化器症状があるわけではないので症状がないからといって否定できないことです。子どものまわりに「口に入るサイズ」の「本来そこにあるべきものが無くなって」いれば飲み込んでいる可能性があります。

さて、子どもの口に入るサイズってどれくらいでしょうか？成人が親指と人差し指で円を作るいわゆるOKサインの円の中を通るものは口に入ります。長さも確認したい方はグッズとして「誤飲チェッカー」や「誤飲防止ルーラー」というものがあって、日本家族計画協会のウェブページで購入することができます。

毒性のありそうな物質を飲み込んだことに気が付いたときは慌てずに中毒110番に電話してください。072-727-2499(大阪中毒110番)電話のかけ間違いに注意してくださいね。もちろん病院受診が必要と言われたらすぐに病院に来てください。その時にどんなことを言われたか録音かメモをしてきてもらえると助かります。正直に言うと病院で医師にその成分を見せられてもすぐには危険性や対処がわからないことがほとんどです。それほど我々の周りには様々な化学製品があるのです。

子どもの口に入るものなら何でも誤飲の原因となり得ます。そして異物誤嚥・誤飲をおこす物質に共通するものは生活環境のどこにでも存在するものであって、決して特別な家庭にしかないものではない。これらの子どもが誤飲するものを家庭から取り去ることはほとんどの場合不可能なためこれら誤嚥・誤飲で子どもに危険なものは子どもの手が届かないところに収納するようにするしかありません。ずっと目を離さないことができなくても、前もって気を付けることはできますよね。

食べられるものだけ食べる分別のあるオトナと違い、子どもはどんなものでも口に入れてしまいます。食欲の秋だけでなく気をつけましょうね。

